

## 基調講演「渋谷のナイトタイム観光のポテンシャル」

### 【司会】

早速、基調講演でございます。本日は東京都市大学都市生活学部准教授の中島伸様から、渋谷のナイトタイム観光のポテンシャルについてご講演をいただきます。それでは、中島様どうぞよろしくお願ひいたします。

### 【中島氏】

皆さん、こんにちは、東京都市大学の中島と申します。

今日は渋谷ナイトタイムの観光フォーラムということで、私の方から基調講演という非常に光栄なんですけれども、おこがましいところではあるんですけれども、観光とまちづくりについて、渋谷について、少しお話ししていけたらと思っています。

まず最初、簡単に自己紹介なんですけど、私自身は専門としては都市デザインをやっています、その中でも多様なセクターの方たちが主体間連携しながらまちづくりを進めていくということを実践的に研究しています。その中で、渋谷もご縁があって現場として色々まちづくりのお手伝い等を都市デザインという観点からさせていただいております。渋谷の具体的な地域に入りまちづくり協議会ですとか、地域の企業や行政の方と一緒に具体的なソーシャルアクション、社会実験をやったりそこからビジョンを起こしていったりとか、そういうことをやっています。

私自身は観光、特にナイトタイム観光そのものの専門家ではないので、今日はここでどんなお話しをしようかなと思ったんですが、渋谷のまちづくりというところから渋谷のことについて少しナイトタイムに特化して考えてみたいということで、ここから話をと思うんですけれども、少し自己紹介的に、渋谷で私が関わったプロジェクトの紹介をしようと思います。

渋谷計画 2040 というのが、渋谷再開発協会という開発事業者の方と地元の商店街の方を中心につくられている会の中で、民間のまちづくりのビジョンという形でつくられたものの、とりまとめを私の方で参画させていただきました。もともと渋谷計画 2040 という計画は、既に第 1 版があって、その中で「渋谷らしさ」を生かし、多様な人々を惹きつけ、新しい価値を生み、まちブランドを発信する成熟した国際都市渋谷というのを標榜してビジョンを掲げていたんですが、これをつくった後に COVID-19 の状況の中で、かなり路面店が空き店舗化したりとか、インバウンドの問題であったりとか、暮らし方、ライフスタイルが変わってくる中で、もう一度これを改定しようということで作る時に私にお声がけがあってですね、渋谷計画 2040 —まちづかい戦略— ということで、いつでも誰もが面白いことに出会い関わり、挑める街ということを標榜してハードとソフトを連携したまちづくりを進めていこうということで、開発によって価値創造をいかにするかということだけではなくて、街の使い手の環境をどういうふうに整えていくかということをやっているということで、ある種ソフト政策的な面も大事にするというところは、今の、このナイトタイム観光といったものと接続していく議論になっていくんじゃないか。それもあって、多分、今日、私にもお声がけがあったのかなと推測しているところです。

その中でウォーカーブルな歩きやすい、歩いて楽しい街であったり、文化的な面をどうやって街の中で応援していけるかとか、そういうことを議論しています。ユニークな谷（たに）地形が育ててきた渋谷を、「街

路から文化を」発信していこうということで、より多くの渋谷ファンの人たちへ開かれた議論や活動の場をいかにつくっていくかということ、渋谷のまちづくりの大きなビジョンとして掲げるということをやっ、今もこの活動を進めています。

今日なんですが、渋谷のナイトタイム観光のポテンシャルを考えるとということで、ナイトタイム観光のポテンシャルを生かすために少し皆さんと考えてみたいことを、この後の具体的な政策の話は後で十分されると思うので、その外側の部分についてちょっと話をしたいなと思います。

ここも概略的なものなので、今渋谷は 100 年に一度の大きな変化と言われていています。再開発が進んでおり、オフィス床が増えたり、ワーカーも増えています。その中でインバウンド観光客も増加している。多様な方たちが今までも渋谷にはいらしたんだけど、さらに多様な人たちが集まってきて、その中で文化創造と交流の生まれる渋谷を加速化させるってことが今あえて大雑把にまとめると起きていることかなと思います。

その中で、渋谷の多様な夜を考えて、私は、都市デザインの「デザイン」という観点からまちづくりを考えていますので、そこを今日は考えてみようかなと思うのです。

今日考えてみたいことは夜っていつのことなのですか？ということ、渋谷の夜とはどんな時間なんだろう？ということ、少し皆さんに問いかけてみたいなと思います。渋谷の街における渋谷の夜の時間の移ろい、こういうものがどうあるのかということ、ちょっと考えてみたいなと思います。

そういうことをちょっと考えてみようと思ったきっかけというか、ヒントになるのが、私が学生の頃、インドを旅しているときに、インドの北インドの古典音楽の中に夜明けのラーガという曲があってですね、これは夜明けに演奏するための音階というか楽曲があって、その時間を指定されている音楽っていうのがある。それは夜明けだけじゃなくて、さまざまな時間のシーンに合わせた音楽というのがあるということを知りました。ある種そうした時間の中で芸術的なもの、文化的な体験、その時間しか得られない体験というのがあるんじゃないかということ。それを街に置き換えるとどうなるんだろうかということ、ちょっと想像してみた訳ですね。渋谷系のピチカートファイブの「東京は夜の七時」という有名な歌なので、皆さんご存知だと思んですけども、この歌も聴いていると何か東京の夜にソワソワするというか期待するというかワクワクするというか、そういうものがかき立てられる時間帯とそのシーン、そういったものって凄く空間や場にも紐づけられているんじゃないかな、そういうことを思うわけですね。なぜかこの「東京は夜の七時」に具体的に PV の中で出てくるシーンは東京の東側が多いんです。けれども、やはり渋谷系というワーディングからか、何となく渋谷の街が想起されるなど、個人的には思っています。

そうした渋谷の夜を想起した時にその時間、そこで起きることの期待みたいなものが場の空気をつくっているんじゃないかなというふうに思っているわけですね。で、そういうものが実はナイトタイム観光といった時に渋谷の夜、いつの、どんなところなのかということが、実はすごくそれぞれの人たちに訪れる人たちにとってイメージするものがあって、そこに期待があって、その時間、その場所に目がけて人って集まってきているんじゃないかな、そういうことを思うわけですね。

少し渋谷の多様な夜の時間と風景のシーンみたいなことを昨日、自分だったら、どんな時間のどんなところがあるかなというのをちょっと考えてみました。僕自身が、という訳だけでもなくて、目撃しているものもあるんですけど、仕事が早上がりなのか、明るいうちから一杯始まるワーカーの 16 時というのがもう既に多分早い人は今日も始まっているんじゃないかと思うんですよね。いいなと思いつつ、ちょっとその横

を通り抜けたりとかするわけですが、あとは「東京は夜の七時」にあるような、これから繰り出す人々が待ち合わせに集まり、宵の口の19時というものがハチ公前広場があったんです。あと2軒目を表通りから裏通りへ物色するような21時過ぎというのがあるんじゃないか、とかあとまだ帰りたくない人ともう帰りたい人の綱引きが始まっているような23時を目撃したり、その綱を引き合ったりしたことを多分皆さんもあるんじゃないかと思うんです。けれども、そういう時間帯があちこちで渋谷でも目撃されると思うんです。私自身、これはちょっとだんだん恥ずかしくなってくるというか普段の渋谷でのお前の飲み方ってどんな感じなんだっていうのがばれるような気もするんですけど、後24時終電間際の道玄坂を転がり下りる人たちっていうのがありますね。渋谷がいいところはどんなに酔っ払っているのも時間が来た、やばいと思ったら下っていく方向に下りていけば、どこかしらの駅の出口に入ることができるっていう地形がこの酔っ払いに優しいというか最後、「はい、こっちが出口ですよ」という風に案内してくれるようなそんな地形を感じるわけです。そして、意図的にか、終電を逃して歩道に人が溢れている午前1時というのも見かけるし、クラブが集まるストリートをホッピングしているような午前2時であったりとか、空が白み始めて始発を待つ人たちがそわそわぞろぞろと何となく動き始める午前4時半というのもあるし、後、昨日がまだ終わってない午前7時の裏通りというの、週末土曜の朝とか日曜日の朝とか目撃したりとか、最近大学で働き始めると土曜の朝結構仕事に行かなきゃいけなくて、渋谷を通りがかった時に午前31時の方たちいるな、みたいな感じで、それも楽しそうだな、こっちは仕事なのにとか思いながら通り過ぎたり、そういう時間がそれぞれに場所と空間、場所を持って空間、そしてそこに関わる時間、そういったものが様々あるような気がしています。

そうした渋谷の多様な夜っていうのを考えてみた時にひとつ夜っていうものには名前がたくさんあるなというふうに気付きました。宵立ち前とか夜支度、宵の口、夜の帳、夜盛り、夜のふり、夜の奥であったり、夜の名残、夜が解(ほど)けるという言い方もありますし、夜明け前や朝またぎっていう言い方、様々夜には時間にまつわる言葉があります。ということは言葉があるってことは、それだけ夜の時間と風景には区別があるってことだと思いますね。その区別が大事にされて、違いが豊かに享受されているってことはすごく文化的なことだと思うんですよね。ということは、恐らく渋谷にも固有の夜がたくさんあって、その夜と渋谷に紐づく言葉がたくさんあるんじゃないかと思うんです。

そうしたものに、もっともっと名前が付いたり、共有されたり、とかしていくと先ほど僕が挙げていたシーンなんて本当に一人の人間から見えてきているものなので、もっともっと多様な夜の時間に名前が付くんじゃないかと思うんです。そう考えると、ナイトタイム観光っていうのはきっとナイトタイムカルチャーみたいなものになっていくということだと思うんですね。

特に近年、都市開発が進んでいく中で、再開発のビルにはオフィス床もたくさん増えています。ということは働く人が渋谷に増えてきている。これは20年前と状況がだいぶ変わってきていると思うんですね。ということは、アフターファイブみたいなものは多分20年前よりも今の方が渋谷にとって受け皿として豊かにあるんじゃないかと思うんです。だけど、そのことについて何かそれをもう一度語り直していくような夜の時間を名付けるような名前や場所が一体どこに展開しているのかなということちょっと思ったりします。当然観光客の方もたくさんいらしている。そうすると渋谷にそうした急増する多様な夜の体験需要、これに名前がもっともっとついていくんじゃないのかなとそういうことを思ったりするわけです。

例えばなんですけど、海外の事例で見た時に、劇場文化とバーカルチャーバーの往還みたいなことって

うのが結構あるなと思っています。劇場でお目当ての何かシアターでお芝居であったり、ショーであったりとかを見る。そうすると、その前にはウェイトングバーがあって、そこで待ち合わせをする。そこからみんなで劇場に繰り出して行くとか、終わった後のアフターディナーがあったりする。一晩の移ろいのシークエンスとして体験されるようなナイトタイムカルチャーがやっぱりそこにはあるんじゃないかと。渋谷で何かちょっとみんなでご飯を食べようよ、であったりとか、あそこでライブ行こうよっていうことの前後にも、そうした移ろいの中でさまざまな体験やシーンの動きがあるんじゃないのかなというふうに思います。渋谷のそうした多様な夜のデザインというところから、ナイトタイム観光を考えてみた時に、その多様さが生み出す移ろい、移ろい方に価値を見出すということもできるんじゃないのかなとそういうところからデザインとしてアプローチしてみるってことができるんじゃないのかなという風に今日少し考えてみました。

今日も色々言ってきましたが、夜の時間の移り変わり、時間的移ろいに着目していく。夜の時間がだんだん深まっていくとか、また明けていく。その大きな時間の流れの中で移ろいの方に着目する。もちろんホットタイムもあると思うんですけど、それが次のホットタイムに移ろっていくところ、また空間的な移ろいとして場から場へと表通りから裏通りへととか、後はこの地形が豊かにある渋谷だからこそあるような移り変わり、そしてそこには再開発で、例えばルーフトップであったりとか、そうした重層的な空間的なものがある、その移り変わりの体験、そのこと自体もすごく価値なんじゃないのかなというふうに思うわけです。

そうした多様な人の多様な夜の時間の移ろいをどうやって繋いでいけるかということも観光の施策であったりとか、僕がやってるのは都市デザインなのですごくこれから大事になってくるんじゃないのかなという風に思っています。このスポット・スポットを開発していくことや、ホットタイムの時間を演出していくことっていうのももちろん、目玉として惹きつけていくためには重要だと思うんですけども、その前後には必ずこの渋谷にやってきて、そして渋谷から出て行くまでの移ろいがあるんじゃないか。そしてまたどこかからどこかへ渋谷の中で回遊していくとか、色々な移ろいがあります。今日ちょっと例として他都市の事例をあげるのはどうかなと思ったんですが、銀ブラという言葉が銀座にはあると思うんですけど、銀ブラって言った時にイメージされるものはたくさんあると思うんですが、銀ブラっていうものが象徴している。施策的な何かがあるわけでもないですし、銀ブラはどこかのスポット開発をしているわけではなくて、むしろスポットとスポットの間をぶらつくことの側の移ろいの方に価値を置いているということだと思えます。

渋谷でも、恐らくそうした移ろいの側のところを価値として楽しめることであったりとか、そこに何か意味だったりとか喜びだったりとか、楽しさであったりとか、誰かと共有すべきものがもっともっと豊かにそこで語られたり説明されていくと、そこに時間と時間であったり、場所と場所の繋がりや価値を可視化してデザインすることができるんじゃないかと。そうしたところからナイトタイムを豊かにしていくことが可能になるんじゃないのかなということを考えてみました。

今日私はどちらかという前座ですので、この後、具体的に渋谷でどんなナイトタイム観光の施策がこれから展開しようとしているのか議論が始まると思いますので、私もいち聴衆として楽しんでいきたいなと思います。

私からの基調講演は以上になります。どうも御清聴ありがとうございました。